

地域住民のアイデアを形にする ～地域資源活用の"連鎖"を生み出す拠点～



種子島 中種子町



かつて船の予約センターとして地域住民に利用されていた築60年の空き家を、地域おこし協力隊を中心に再生したプロジェクト。地域資源活用を象徴する拠点として生まれ変わった。



リノベーションは専門性を伴う設備を除き、可能な限りDIYで実施。高校生ら地域住民が延べ50人以上も参加し、地元の人々にとっても思い入れのある拠点となった。



拠点は、種子島の方言で「イイネ！」を意味する「よかな！」と命名。現在、町民や移住者を中心に地域活性化に取り組んでいる人・これから取り組みたい人が活動拠点としている。

駐在している地域おこし協力隊にはチャレンジしたい内容の相談が可能。レンタルキッチンやWi-Fi環境等も整備し、ソフト・ハードの揃った場所となった。



この拠点のリノベーションに参加していた種子島中央高校の生徒が、学外活動で同じ町内の空き家を再生することを決意。所有者と協議しながら、中長期の期間で滞在する移住体験施設としてリノベーションする計画。

1件の空き家再生で終わることなく、他の空き家をはじめとした地域資源活用の『連鎖』が生まれる場所として、活動を展開している。

